

破格的可能形式の実態：来レル・見レルなどの言い方について

著者	出野 憲司
出版者	長野県ことばの会
引用	ことばの研究 6: 45-53 (1992)
発行年月日	1992-03-25
URL	http://hdl.handle.net/10091/00022393

破格的可能形式の実態

—来レル・見レルなどの言い方について—

出野 憲司

I はじめに

日常の言語生活のなかで、何気なく耳にしたことばが、通常の形式から逸脱しており、「変な言い方」とか、「間違った言い方」と感じることもある。しかし、その「変」とか「間違っている」という感じには、年代差、あるいは、地域差などがあることがある。たとえば、同一の形式を耳にしても、高年層には「変」に感じられても、若年層には「普通」の形式であると感じられるような場合である。これは、言語の歴史的変遷の過程においては、古い形式と、新しい形式が共存し拮抗している状態、つまり「ことばのゆれ」を示していると言える。この共存の状態では、新しい形式は「間違った表現」として、多く伝統的な形式を重んじる人々からは非難されるが、徐々に勢力を増していき、ついにはだれにも「普通」の形式と感じられるようになる場合も少なくないだろう。

ここでは、しばしば問題にされる破格的可能形式—一段活用動詞のいわゆる可能動詞化—について取り上げる。この形式は、高年層の多くは、「間違った表現」として眉をひそめるが、若年層は「普通の表現」として間違いという意識がないものである。

本稿は、首都圏と長野県諏訪地区の高校生を対象に行った簡単なアンケート調査の結果に基づいて、破格的可能形式の実態を探ることを目的とする。

II 従来の調査研究

破格的可能形式については、湯沢幸吉郎氏により、昭和20年前後に取り上げられている。⁽¹⁾ここでは、すでに、破格的可能形式が広く使われはじめていることが示されている。その後いくつかの研究が見られるが、そのうち、このような形式が発生した理由または勢力を増大させた理由を扱ったものとして次のような文献が挙げられる。

発生については、5段活用動詞の可能動詞化が起こったことに伴って、他の活用形（カ変・一段）においても可能動詞化が起こったという説⁽²⁾、あるいは、「見レル」「来レル」といった形式は、もともと方言として地方に存在し、それが伝播したという説がある。⁽³⁾また、勢力増大の理由としては、助動詞「レル」「ラレル」は、可能の他に、受け身・尊敬・自発の機能をも果たすため、意味の住みわけができるこの形式が好まれたという説がある。⁽⁴⁾

さらに、中村通夫氏による、破格的可能形式の成立の過程に関する研究がある。中村氏は、破格的可能形式の成立について次のようにまとめている。⁽⁵⁾

東京語でのこの傾向は、最初に一音節語幹の語の否定形、来れない・見れないあたりからまず初まり、やがて着れない・出れない・寝れないなどを襲い、肯定形を生ずるとともに、ついで二音節語幹の起きれ・降りれ・受けれ・逃げれ・投げれ・食べれ・立てれ・捨てれ・懸けれ、などを襲ったものではあるまいかと考えている。

なお、調査地点である長野県諏訪地区の記述として、青木千代吉氏によるつぎのような報告がある。⁽⁶⁾

可能の言い方は、標準語では（一）読まれる （二）読める （三）起きられるの

例に見られるように、四段の動詞には助動詞「れる」を、その他の動詞には「られる」が用いられ、また四段の場合には可能動詞として用いられるのが普通であります。信州においては、北信地方で 読めーる しーる 書けーる（以下語例略）といい、安筑地方では 読みえる 取りえる 食べえる という言い方が行われてそれぞれ特徴を示して居ります。これに対して木曽、下伊那地方では、

可能の言い方 書けける 言えれる 食べれる 来れる （以下語例略）

その否定形 書けれん 言えれん 食べれん 来れん （以下語例略）

と用いまして、標準語の「読まれる」「書かれる」「見られる」「起きられる」となる形と対応しております。つまり南信地方では、あらゆる動詞に「れる」をつけて可能の意味を表わすのでありますが……

Ⅲ 調査対象・時期及び方法

1 調査対象

埼玉県越谷市内私立高校 1・2 年生 120 名（男子 55 名・女子 65 名）…首都圏

長野県諏訪市内公立高校 1・2 年生 133 名（男子 40 名・女子 93 名）…諏訪地区

2 調査時期

1991 年 1 月

3 調査方法

質問紙法によるアンケート

Ⅳ 調査結果及び考察

調査結果は、表 1・2 の通りである。集計整理上、項目を、語幹拍数別にまとめ、肯定形、否定形別、地域別に示した。表内の（ ）内は、人数である。

1 拍数別による破格率の比較

調査結果を拍数ごとにまとめたのが、図 1 である。調査語例の（ ）内は、語幹の拍数を示す。

この図を見ると、おおよそ、地域、肯定形・否定形関係なく、拍数が増えるに従って、破格的形式の使用率が減っているのが分かる。ただし、「入れる」については、その限りでなく、首都圏、諏訪地区ともに破格率が低い。これは、「入れる」の破格的可能形式は「イレレル」「イレレナイ」となり、「レ」が連続してしまうことにより、避けられがちなのではないかと考えられる。首都圏に比べて、諏訪地区において破格率が高いのは、諏訪地区においては、方言として「イレレル」「ミレレル」といった形式を持っていることによるであろう。

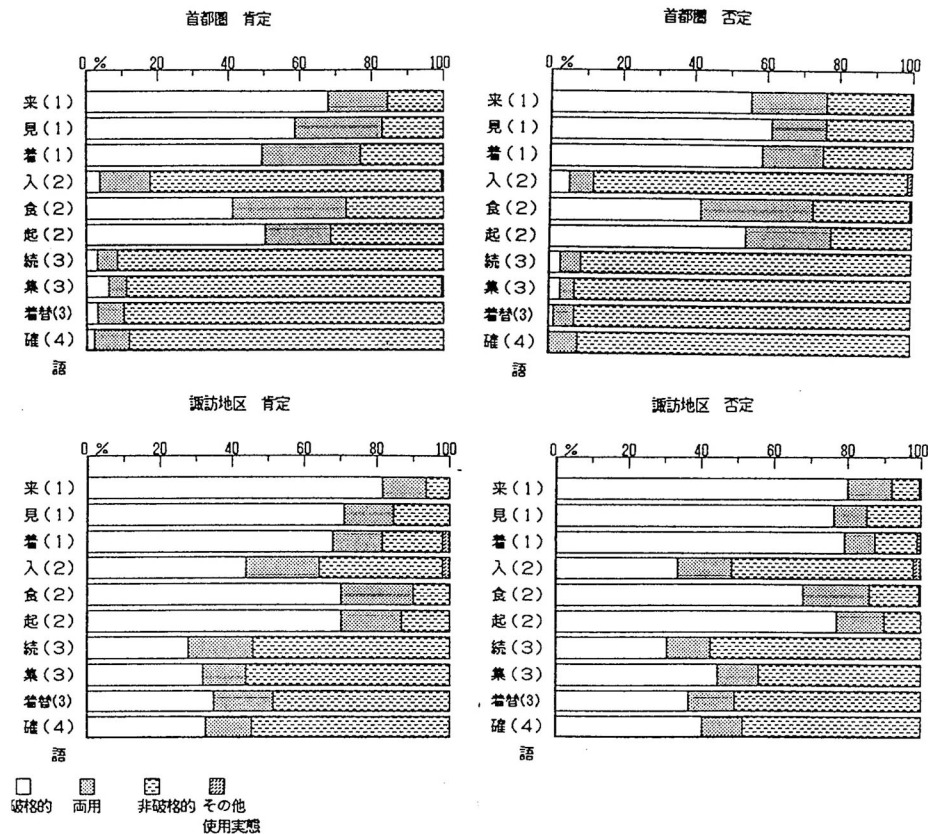
また、破格的形式の使用率は、語幹の拍数が 2 拍と 3 拍とに大きな隔たりがある。拍数が 2 拍以下の場合には破格的形式を用いる率（両用を含む）は、「入れる」を除くと首都圏では 70% 以上、諏訪地区では 80% 以上を示すが、3 拍以上になると、首都圏では 10% 前後以下、諏訪地区でも 50% 前後以下となっている。破格的可能形式が用いられるかどうかというラインは、語幹の拍数が 2 拍か、3 拍かというところに引くことができそうである。

これは、拍数の上からいえば、前掲の中村氏の考察の通りであるが、その考察から 40

年近く経過した現在においても、3拍の語にまでは、破格化が進んでいないことになる。

なお、「着替える」は複合動詞の例として加えた語であるが、複合動詞という要素は破格率のうえでは、あまり効いてはいないことがわかる。

図1 拍数別による破格率の比較



2 肯定形・否定形による破格率の比較

肯定形と・否定形との間で、破格率にどのような差があるかについてまとめたのが図2である。

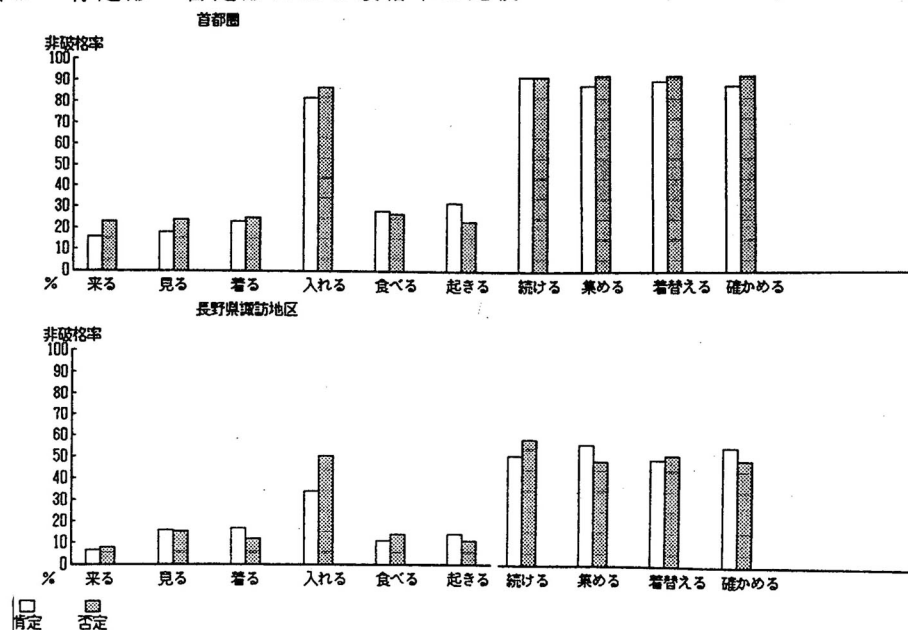
図は、非破格率を示したものであり、値が高いほど、両用を含めて破格的形式を用いる率が低いことを示している。すると、肯定形のほうが、否定形より破格率が高い項目が、首都圏では7項目、諏訪地区では5項目ということになり、全体としては、肯定形の方が破格率が高いことになる。ただし、その差はあまり大きいものではなく、比較的大きな差があるものとして、首都圏の「来る」の7.5%、「見る」の6.7%、諏訪地区の「入る」の15.8%、「続ける」の7.5%が挙げられる。逆に、否定形の方が破格率が

高い項目としては、首都圏の「起きる」の9.2%、諏訪地区の「集める」8.3%、「確かめる」の6.0%が挙げられる。

全体の非破格率を平均すると、首都圏では肯定形55.6%、否定形57.9%、諏訪地区では肯定形30.8%、否定形31.3%であり、両地区ともに、若干ながら、肯定形の方が破格率が高いことになる。

この肯定形と否定形との関係については、前述のように中村通夫氏の否定形に発生し、肯定形をも襲ったという見解があるが、今回の結果はそれを裏付けるものとはなっていない。破格的表現の成立の経緯としては、否定形から肯定形という過程をたどったが、実際の言語生活においては、話者の言い易さや、規範意識などにより、むしろ否定形では使われにくいということを示しているのであろうか。これについては、回答者の意識調査などを行ってみる必要があるだろう。

図2 肯定形・否定形による破格率の比較



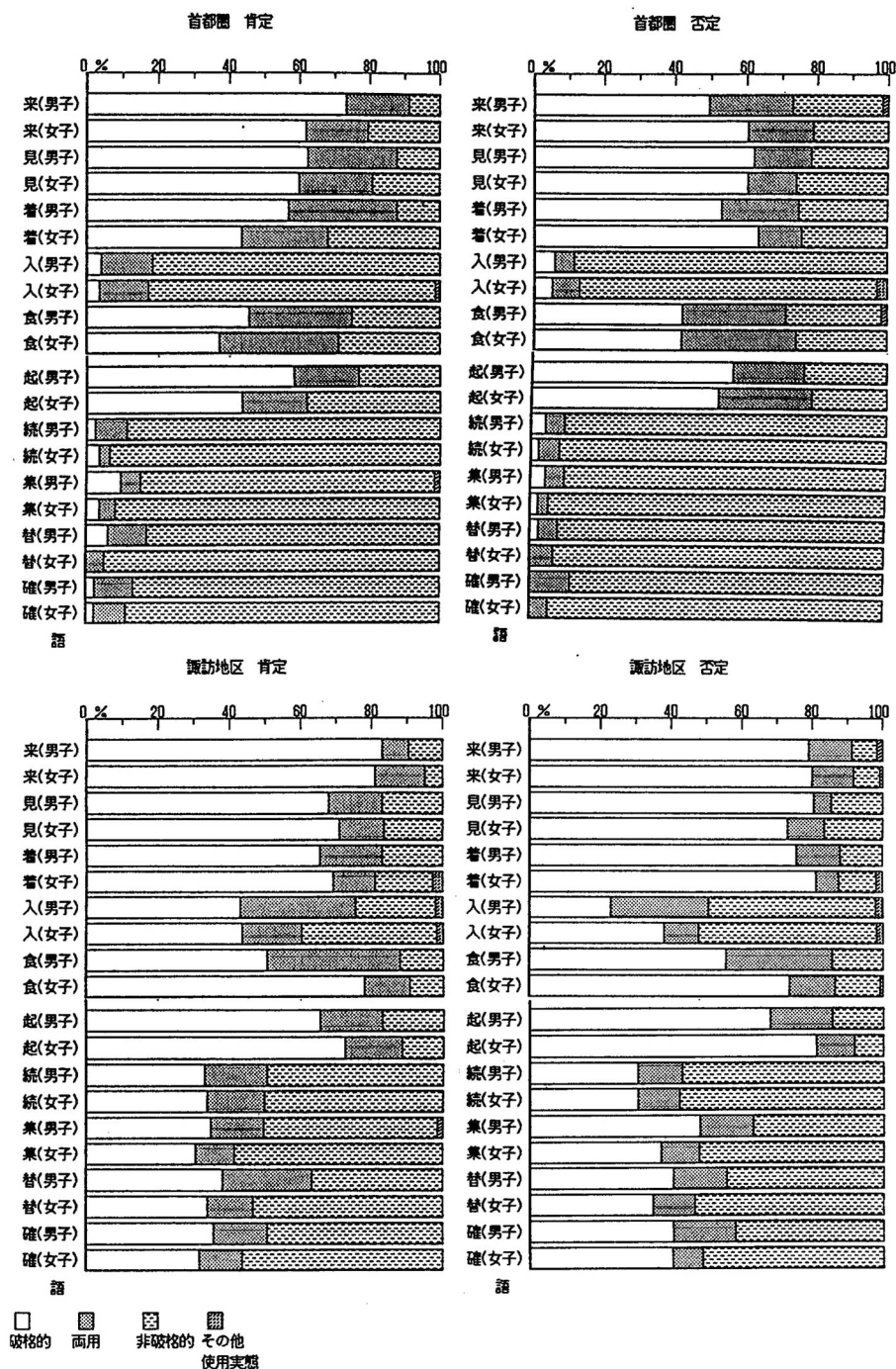
3 男女別による破格率の比較

破格率と、男女差の関係を図3に示す。

首都圏においては、肯定形では、両用を含め、女子に比べ男子の方が破格率が高く、一方、否定形では、語幹の拍数が1・2拍のものについては、女子の方が破格率が高く、3拍以上になると、男子の方が破格率が高くなるという傾向が見られる。それに対して、諏訪地区では、肯定形、否定形ともに、語幹の拍数が1・2拍のものについては、女子の方が破格率が高く、3拍以上になると、男子の方が破格率が高くなるという傾向がある。また諏訪地区の場合、1・2拍の語については、男子に比べ、非破格率も高くなっていることに特徴がある。

男女差の大きいものを挙げると、両用を含め、肯定形では首都圏「着る」19.6%、「起きる」14.9%、諏訪地区「入れる」16.2%、「着替える」16.3%などが

図3 男女別による破格率の比較



挙げられる。それに対して、否定形では、首都圏「来る」5.8%、「着替える」6.3%、諏訪地区「起きる」6.3%、「集まる」16.2%、「着替える」8.8%、「確かめる」9.1%などとなり、否定形の方が男女差は小さくなる傾向にある。

また、諏訪地区の「食べる」では、破格的形式を主に用いるという回答については、男女差が大きく、肯定形で、36.0%、否定形で、18.1%となっているが、これは、諏訪地区では方言として「クー（食う）」があり、男子は主にその形式を用いていることによるものと考えられる。

4 地域別による破格率の比較

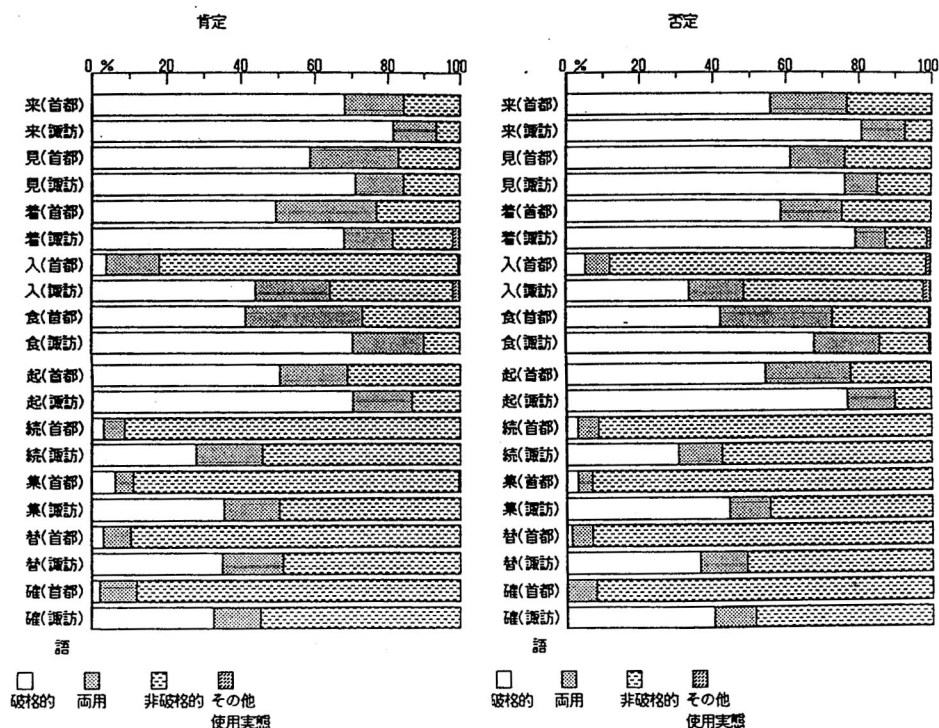
地域による、破格率の違いを図4に示す。

図4から、明らかに、首都圏に比べて、諏訪地区の方が破格率が高いことを示しているがわかる。

首都圏においては、語幹の拍数が増えるに従って破格率が低下し、3拍以上になると、主に破格的形式を用いるという回答は、一番高い値で「集める」5.8%、両用を含めても10%前後以下という値を示す。それに対して、諏訪地区では、拍数が増えるに従って破格率は低下するものの、主に破格的形式を用いるものとしては最低値でも「続ける」の25.6%を示し、両用では、50%以上を示している。

これは、諏訪地区は、前掲の青木千代吉氏の指摘の通り、方言として「来レル」「見レル」といった形式を持っている地域であり、それが、若年層にも用いられていることの結果であろう。

図4 地域別による破格率の比較



V まとめと今後の課題

若年層を中心に広まっているとしばしば指摘され、伝統的な形式を重んじる人々からは非難されることもある破格的可能形式の、使われ方の実態を見ることが目的であったが、次のような実態が明らかになった。

- 1 語幹の拍数が多くなるに従って、破格的形式の使用率は低くなる。
- 2 破格的形式の使用率の高低を決定づける拍数のラインは2拍と3拍の間に引くことができる。
- 3 肯定形と否定形では、肯定形の方が破格的形式の使用率が高い。
- 4 男女の差としては、概ね、拍数が少ないほど、女子の破格的形式の使用率が高いが、破格的形式を用いることに、男子の方が積極的であると考えられる。
- 5 首都圏と、諏訪地区を比較すると、明らかに諏訪地区において、破格的形式の使用率が高く、方言との関係が考えられる。

ただし、今回の調査は、サンプル数が少なく、特に男女差については、一般的な実態と断定することは差し控えなければならない。また、調査方法が、アンケートであるということから、実際の言語生活とは異なった結果が出ていることも予想される。

しかしながら、全体として、破格的形式が多く用いられていることは事実であり、今後も勢力が弱まることはないであろう。その反面、昭和初期の発生から60年以上を経た現在でも、3拍以上になると使用率が著しく低くなることもまた事実であり、完全にこのような形式が定着するかどうかには疑問が残る。

現在、東京言語調査研究会（代表 大島一郎東京都立大学名誉教授・現神田外国語大学教授）では、『新・東京都言語地図』の作成を進めている。これは、東京都及びその周辺地域約260地点において、音韻・アクセント・文法・語彙・言語意識の5つの分野、約300項目について、現在の実態を明らかにするとともに、今後の動態をも探ろうというものである。今回、アンケート調査を行った項目は、この『新・東京都言語地図』の調査項目にあわせた。

現在は、破格的形式と呼ばれている「来レル」「見レル」などという言い方が、近い将来は、共通語に昇格するかどうかという趨勢を、今後は、『新・東京都言語地図』の結果とあわせて考えていきたい。

（伊那西高等学校教諭）

注

- (1) 『現代口語の実相』（昭和26年習文社）
- (2) 渡辺実「『行ける』『見れる』—可能表現の動き」（『月刊文法』昭和44年6月）
佐治圭三「現代文法の特質・その将来」（『講座日本語学3』明治書院）
- (3) 真田信治「語法上の”ゆれ”の地理的背景」（『言語生活』昭和55年6月）
- (4) 渡辺実「『行ける』『見れる』—可能表現の動き」（『月刊文法』昭和44年6月）
佐治圭三「現代文法の特質・その将来」（『講座日本語学3』明治書院）
- (5) 中村通夫「『来れる』『見れる』『食べれる』などという言い方についての覚え書き」（『金田一博士古稀記念 言語民俗論叢』昭和28年三省堂）
- (6) 『信州方言読本』（昭和23年信濃教育会）

表1 語幹の拍数 肯否別破格率一覧表 <首都圏>

	肯定形				否定形			
	形式	首都全員	首都男子	首都女子	形式	首都全員	首都男子	首都女子
拍	コルル	67.5(81)	72.7(40)	63.1(41)	コルナイ	55.0(66)	49.1(27)	60.0(39)
	両形式	16.7(20)	18.2(10)	18.2(10)	両形式	20.8(25)	23.6(13)	18.5(12)
	コラレル	15.8(19)	9.0(5)	21.5(14)	コラレナイ	23.3(28)	25.5(14)	21.5(14)
	その他	0(0)	0(0)	0(0)	その他	0.8(1)	1.8(1)	0(0)
	ミルル	58.3(70)	61.8(34)	65.5(36)	ミルナイ	60.8(73)	61.8(34)	60.0(39)
	両形式	24.2(29)	25.5(14)	23.1(15)	両形式	15.0(18)	16.4(9)	13.8(9)
	ミラレル	17.5(21)	12.7(7)	21.5(14)	ミラレナイ	24.2(29)	21.8(12)	26.2(17)
	その他	0(0)	0(0)	0(0)	その他	0(0)	0(0)	0(0)
	キルル	49.2(59)	56.4(31)	43.1(28)	キルナイ	58.3(70)	52.7(29)	63.1(41)
	両形式	27.5(33)	30.9(17)	24.6(16)	両形式	16.7(20)	21.8(12)	12.3(8)
二	キラレル	23.3(28)	12.7(7)	32.3(21)	キラレナイ	25.0(30)	25.5(14)	24.6(16)
	その他	0(0)	0(0)	0(0)	その他	0(0)	0(0)	0(0)
	イルル	3.3(4)	3.6(2)	3.1(2)	イルナイ	5.0(6)	5.5(3)	4.6(3)
	両形式	14.2(17)	14.5(8)	13.8(9)	両形式	6.7(8)	5.5(3)	7.7(5)
	イラレル	81.7(98)	81.8(45)	81.5(53)	イラレナイ	86.7(104)	89.1(49)	84.6(55)
	その他	0.8(1)	0(0)	1.5(1)	その他	1.7(2)	0(0)	3.1(2)
	タベル	40.8(49)	45.5(25)	36.9(24)	タレナイ	41.7(50)	41.8(23)	41.5(27)
	両形式	31.7(38)	29.1(16)	33.8(22)	両形式	30.8(37)	29.1(16)	32.3(21)
	タバレル	27.5(33)	25.5(14)	29.2(19)	タバレナイ	26.6(32)	27.3(15)	26.2(17)
	その他	0(0)	0(0)	0(0)	その他	0.8(1)	1.8(1)	0(0)
拍	キレル	50.0(60)	58.2(32)	43.1(28)	キレナイ	54.2(65)	56.4(31)	52.3(34)
	両形式	18.3(22)	18.2(10)	18.5(12)	両形式	23.3(28)	20.0(11)	26.2(17)
	キラレル	31.7(38)	23.6(13)	38.5(25)	キラレナイ	22.5(27)	23.6(13)	21.5(14)
	その他	0(0)	0(0)	0(0)	その他	0(0)	0(0)	0(0)
	ツケル	2.5(3)	1.8(1)	3.1(2)	ツケナイ	2.5(3)	3.6(2)	1.5(1)
	両形式	5.8(7)	9.1(5)	3.1(2)	両形式	5.8(7)	5.5(3)	6.2(4)
	ツケラレル	91.7(110)	89.1(49)	93.8(61)	ツケラレナイ	91.7(110)	90.9(50)	92.3(60)
	その他	0(0)	0(0)	0(0)	その他	0(0)	0(0)	0(0)
	アツメル	5.8(7)	9.1(5)	3.1(2)	アツメナイ	2.5(3)	3.6(2)	1.5(1)
	両形式	5.0(6)	5.5(3)	4.6(3)	両形式	4.2(5)	5.5(3)	3.1(2)
拍	アツメラレル	88.3(106)	83.6(46)	92.3(60)	アツメラレナイ	93.3(112)	90.9(50)	95.4(62)
	その他	0.8(1)	1.8(1)	0(0)	その他	0(0)	0(0)	0(0)
	キヤレル	2.5(3)	5.5(3)	0(0)	キヤレナイ	0.8(1)	1.8(1)	0(0)
	両形式	7.5(9)	10.9(6)	4.6(3)	両形式	5.8(7)	5.5(3)	6.2(4)
	キヤラレル	90.0(108)	83.6(46)	95.4(62)	キヤラレナイ	93.3(112)	92.7(51)	93.8(61)
	その他	0(0)	0(0)	0(0)	その他	0(0)	0(0)	0(0)
	タシカメル	1.7(2)	1.8(1)	1.5(1)	タシカメナイ	0(0)	0(0)	0(0)
	両形式	10.0(12)	10.9(6)	9.2(6)	両形式	7.5(9)	10.9(6)	4.6(3)
	タシカメラレル	88.3(106)	87.3(48)	89.2(58)	タシカメラレナイ	92.5(111)	89.1(49)	95.4(62)
	その他	0(0)	0(0)	0(0)	その他	0(0)	0(0)	0(0)
参考	イクル	77.5(93)	80.0(44)	75.4(49)	イクナイ	69.2(83)	67.3(37)	70.8(46)
	両形式	12.5(15)	10.9(6)	13.8(9)	両形式	18.3(22)	21.8(12)	15.4(10)
	イカル	10.0(12)	9.1(5)	10.8(7)	イカレナイ	12.5(15)	10.9(6)	13.8(9)
	その他	0(0)	0(0)	0(0)	その他	0(0)	0(0)	0(0)

表2 語幹の拍数 肯否別破格率一覧表 <諏訪地区>

	肯定形			否定形				
	諏訪全員	諏訪男子	諏訪女子	形式	諏訪全員	諏訪男子	諏訪女子	
一	形式	81.2(108)	82.5(33)	80.6(75)	コル	79.7(106)	80.0(32)	79.6(74)
	両形式	12.0(16)	7.5(3)	14.0(13)	両形式	12.0(16)	12.5(5)	11.8(11)
	コラル	6.8(9)	10.0(4)	5.4(5)	コル	7.5(10)	7.5(3)	7.5(7)
	その他	0(0)	0(0)	0(0)	その他	0.8(1)	0(0)	1.1(1)
	ミル	70.7(94)	67.5(27)	72.0(67)	ミル	75.9(101)	80.0(32)	74.2(69)
	両形式	13.5(18)	15.0(6)	12.9(12)	両形式	9.0(12)	5.0(2)	10.7(10)
	ミラル	15.8(21)	17.5(7)	17.2(14)	ミル	15.0(20)	15.0(6)	17.2(14)
	その他	0(0)	0(0)	0(0)	その他	0(0)	0(0)	0(0)
	キル	67.7(90)	65.0(26)	68.8(64)	キル	78.9(105)	75.0(30)	80.6(75)
	両形式	13.5(18)	17.5(7)	11.8(11)	両形式	8.3(11)	12.5(5)	6.5(6)
二	キラル	16.5(22)	17.5(7)	16.1(15)	キル	11.3(15)	12.5(5)	10.7(10)
	その他	2.3(3)	0(0)	3.2(3)	その他	1.5(2)	0(0)	2.2(2)
	イル	43.6(58)	42.5(17)	44.1(41)	イル	33.1(44)	22.5(9)	37.6(35)
	両形式	20.3(27)	32.5(13)	17.2(14)	両形式	15.0(20)	27.5(11)	9.7(9)
	イル	33.8(45)	22.5(9)	38.7(36)	イル	49.6(66)	47.5(19)	50.5(47)
	その他	2.3(3)	2.5(1)	2.2(2)	その他	2.3(3)	2.5(1)	2.2(2)
	バル	75.2(100)	50.0(20)	86.0(80)	バル	67.7(90)	55.0(22)	73.1(68)
	両形式	21.2(28)	37.5(15)	14.0(13)	両形式	18.0(24)	30.0(12)	12.9(12)
	バラル	11.3(15)	12.5(5)	10.7(10)	バル	13.5(18)	15.0(6)	12.9(12)
	その他	0(0)	0(0)	0(0)	その他	0.8(1)	0(0)	1.1(1)
三	キル	69.9(93)	65.0(26)	72.0(67)	キル	76.7(102)	67.5(27)	80.6(75)
	両形式	16.5(22)	17.5(7)	16.1(15)	両形式	12.8(14)	17.5(7)	10.7(10)
	キラル	13.5(18)	17.5(7)	11.8(11)	キル	10.5(14)	15.0(6)	8.6(8)
	その他	0(0)	0(0)	0(0)	その他	0(0)	0(0)	0(0)
	ツケル	25.6(34)	32.5(13)	33.3(31)	ツケル	30.1(40)	30.0(12)	30.1(28)
	両形式	16.5(22)	17.5(7)	16.1(15)	両形式	12.0(16)	12.5(5)	11.8(11)
	ツケラル	50.4(67)	50.0(20)	50.5(47)	ツケル	57.9(77)	57.5(23)	58.1(54)
	その他	0(0)	0(0)	0(0)	その他	0(0)	0(0)	0(0)
	ツメル	31.6(42)	35.0(14)	30.1(28)	ツメル	40.0(53)	47.5(19)	36.6(34)
	両形式	12.0(16)	15.0(6)	10.8(10)	両形式	12.0(16)	15.0(6)	10.8(10)
四	ツメル	56.4(75)	50.0(20)	59.1(55)	ツメル	48.1(64)	37.5(15)	52.7(49)
	その他	0(0)	0(0)	0(0)	その他	0(0)	0(0)	0(0)
	キル	34.6(46)	37.5(15)	33.3(31)	キル	36.1(48)	40.0(16)	34.4(32)
	両形式	16.5(22)	25.0(10)	12.9(12)	両形式	12.8(17)	15.0(6)	11.8(11)
	キラル	48.9(65)	37.5(15)	53.8(50)	キル	51.1(68)	45.0(18)	53.8(50)
	その他	0(0)	0(0)	0(0)	その他	0(0)	0(0)	0(0)
	ツカメル	32.3(43)	35.0(14)	31.2(29)	ツカメル	39.8(53)	40.0(16)	39.8(37)
	両形式	12.8(17)	15.0(6)	11.8(11)	両形式	11.3(15)	17.5(7)	8.6(8)
	ツカメル	54.9(73)	50.0(20)	57.0(53)	ツカメル	48.9(65)	42.5(17)	51.6(48)
	その他	0(0)	0(0)	0(0)	その他	0(0)	0(0)	0(0)
参考	イクル	64.7(86)	67.5(27)	63.4(59)	イクル	48.1(64)	52.5(21)	46.2(43)
	両形式	12.0(16)	15.0(6)	10.8(10)	両形式	15.0(20)	15.0(6)	15.1(14)
	イクル	12.0(16)	10.0(4)	12.9(12)	イクル	20.3(27)	20.0(8)	20.4(19)
	その他	11.3(15)	7.5(3)	12.9(12)	その他	16.5(22)	12.5(5)	18.3(17)